生活困窮者自立支援事業
パート2
コロナ禍で生活困窮社会的孤立が問うもの

社会福祉法人　豊中市社会福祉協議会　勝部麗子

全国の社会福祉協議会は今

緊急小口資金　総合福祉資金　への対応

…コロナの影響で減収した人への貸付

緊急小口資金貸付

総合福祉資金貸付件数

総合延長

総合 再貸付

食材希望希望

住居確保給付金　　*市が実施

自立支援金

飲食、イベント、観光、タクシー、様々な教室の先生、美容師、俳優、格闘家、建設業等

豊中では毎日100件を超える相談も

すでに相談は16000件を超え

⇒一人も取りこぼさない活動を進めてきた

コロナ貧困の特徴

- リーマンショックとは違う

　リーマン主に製造業の派遣切り

コロナは飲食・インバウンド・イベント、観光などの自営業に被害が集中…もともと社会保障が弱い層が浮き彫りに

⇒　コロナがおさまれば一定の収入が見込まれる

例）ローンを組んでマンション購入

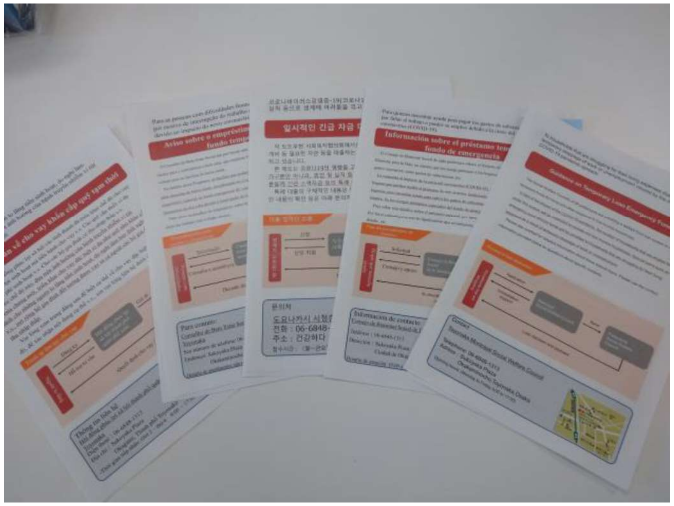
自家用車で営業に使っている

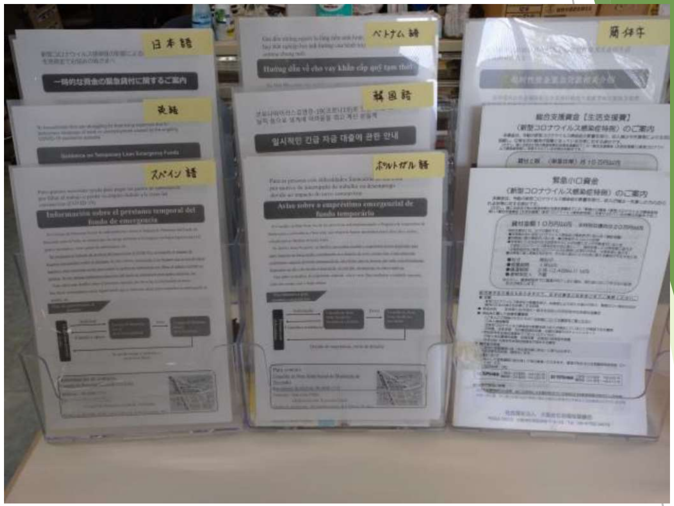
⇒廃業してしまうとまた元の商売を行うためにはすごくハードルが上がる

▶外国にルーツのある親子・生活困窮に陥った親子

そもそも学校にもつながっていない子供たち

多言語での制度紹介パンフも…





緊急小口資金は在留資格の人も対象になったため

貸付件数　貸付件数のうち約5%　350件

飲食・英会話などの先生・音楽家等

インバウンド関係

対象者　ネパール・インド・フィリピン・ブラジル

フランス・ペルー・ベトナム・タイ

(国際結婚アメリカ・イギリス、モンゴル等)

外国人向けのなんでも相談会を市役所・国際交流センターと共催

(重層的支援体制整備を目指す包括支援プロジェクト)

2.新たな外国人との交流の場作り（社協）

- 庄内和居輪居（庄内幸町）
- 神吉マンション（小曽根）

→お披露目を兼ねて青空バザーを実施（6/26）

＊コロナ下で室内での集まりが困難な状況
いずれは交流会など企画していく

豊中あぐりの8番目の畑は地域共生ファーム

- 豊中あぐりパーク

←手作りのかかし　”マネオ“くん

豊中あぐりで野菜収穫体験・
あぐりパークでの芋ほり　（社協）

外国人親子も参加　あぐりのメンバーから教えてもらいながら収穫

市社協と社会福祉施設連絡会が共催で
おとな食堂を開催予定

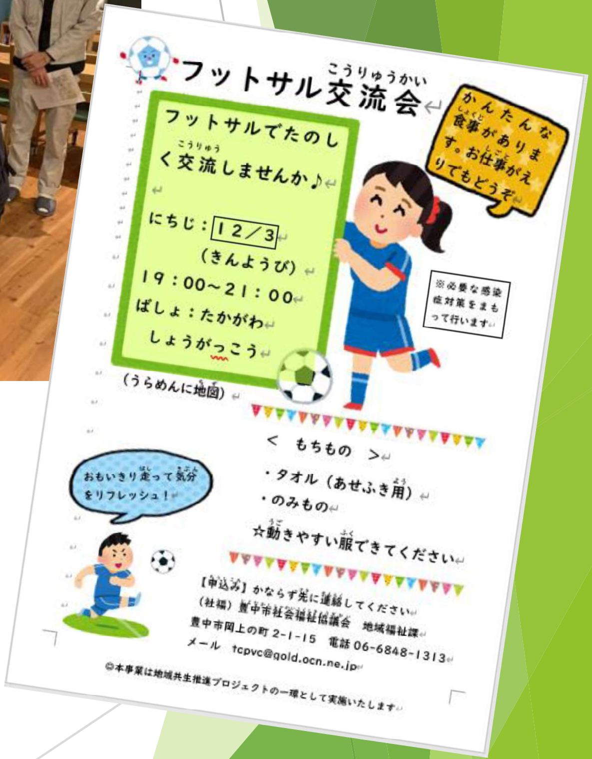
- 外国人限定ではなく、コロナ禍で困られる方やひとり親家庭も対象。
- お弁当のテイクアウトと食材配布を実施し、生活相談があればその場で市社協職員が対応する。
- 国際交流協会の協力でやさしい日本語版のチラシを作成いただき、啓発も依頼。外国人技能実習生の入国後講習を行う研修施設であるマルインターナショナルにも情報提供。

大人食堂&食材配布

70名が参加

〇外国人への新たな食材支援（社協）

↑コロナで影響を受けている夜間中学の学生さんを応援。生徒には外国人の方も多く今後も連携して支援。
＊地域共生フォーラム（全体テーマ）で夜間中学が題材の映画「学校」上映会を企画中（1/21予定）



↑技能実習生のみなさんにお届け
次回はフットサルを通じて交流予定（12/3）

料理交流

○個別支援ケース（社協CSW）プロジェクト開始から連携も増え相談数が
かなり増えている

- ケース１

　派遣会社を解雇され、寮のアパートを退去しないとならなくなったフィリピン人家族。

　急きょ家探しを支援し、転居費用はコロナの特例貸付と府社協の社会貢献費用も活用。

　退居の期限までに引っ越しをすることができ、その後も宅食などでつながりを続けながら見守る。

- ケース２

　日本で長く生活している中国人母子世帯。中国から娘が短期滞在の予定で来ていたがコロナ禍で帰国できなくなる。母がコロナで減収していたところに娘の生活費や帰国時の出費がかさみ困る。

　総合相談会で通訳交え相談を聞くことができ、コロナの特例貸付を申請し生活費を安定させることができる。

　娘も帰国することができ安心される
。

その他、単身の方や生活面での相談なども入っている

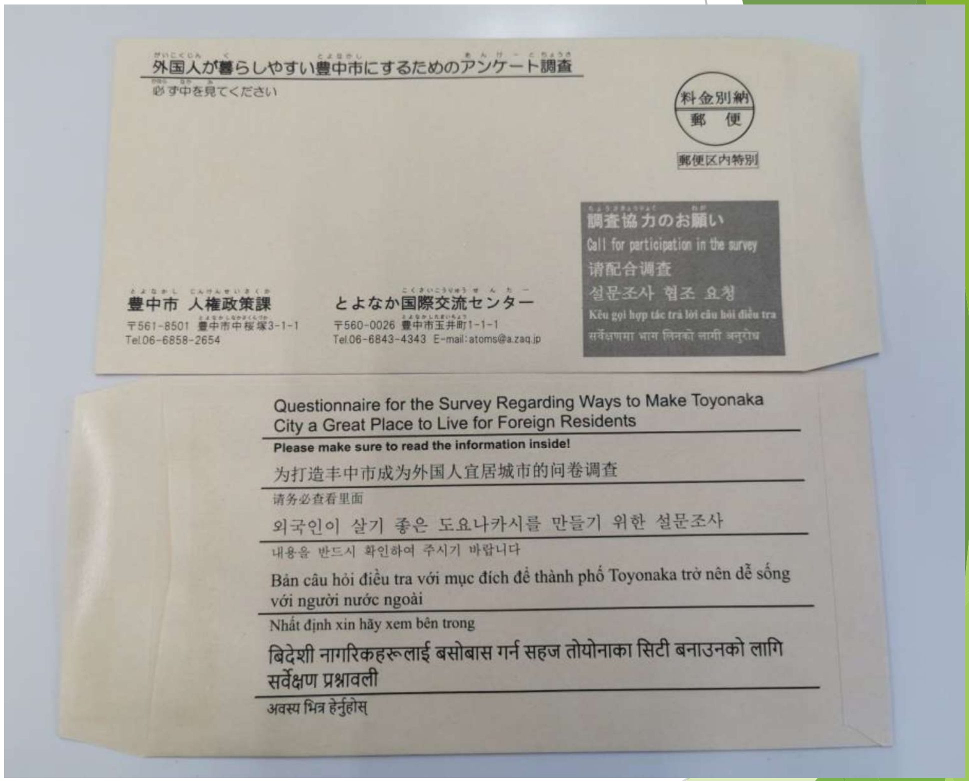
「外国人が暮らしやすい豊中市にするためのアンケート調査」について（市・とよなか国際交流協会との共同事業）

【アンケート調査の概要】

- 実施期間：令和3年（2021年）7月20日から令和3年（2021年）8月31日
- 対 象 者：18歳以上の外国人市民約2,800人

  ※「特別永住者」「永住者」は含まない

- 調査方法：原則、オンラインでの回答（6言語対応　やさしい日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、ネパール語）。対象者には、7月20日頃にオンライン回答ができるQRコードを印字した調査依頼書を郵送。

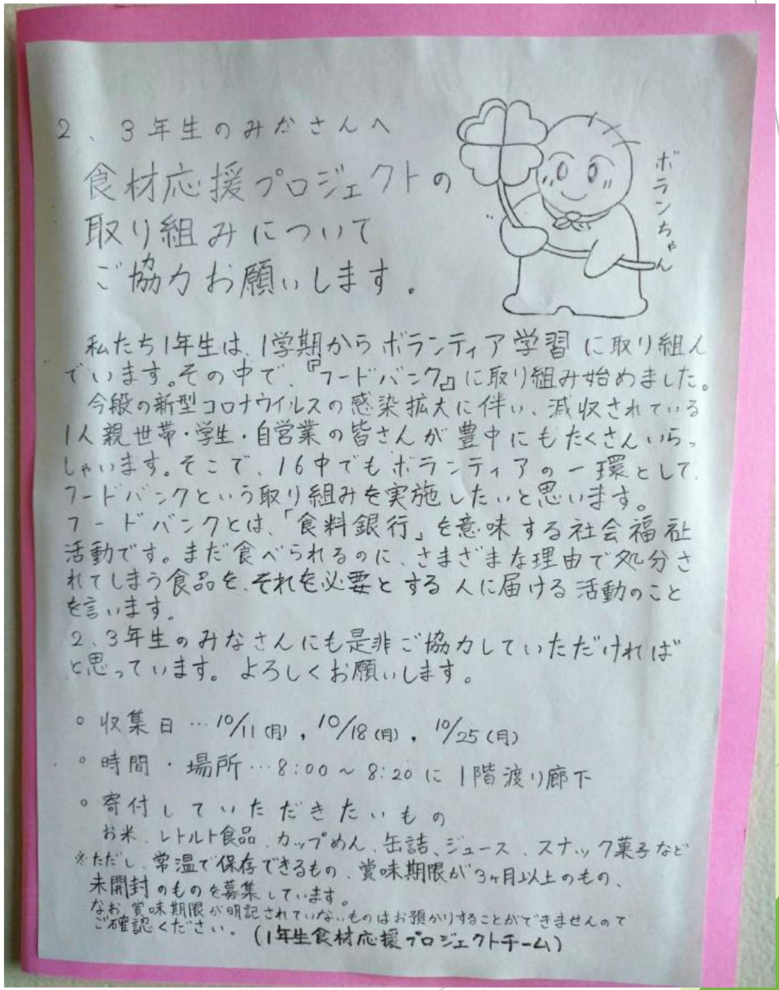


↑国流ホームページより

企業とコラボレーション

フードドライブ

中学生が取り組むフードドライブ
支える人も支えられる人も幸せになる…



2、3年生のみなさんへ

食材応援プロジェクトの
取り組みについて
ご協力お願いします。

ボランちゃん

私たち1年生は、1学期からボランティア学習に取り組んでいます。その中で、『フードバンク』に取り組み始めました。
今般の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、減収されている1人親世帯・学生・自営業の皆さんが豊中にもたくさんいらっしゃいます。そこで、16中でもボランティアの一環としてフードバンクという取り組みを実施したいと思います。
フードバンクとは、「食料銀行」を意味する社会福祉活動です。まだ食べられるのに、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、それを必要とする人に届ける活動のことを言います。
2、3年生のみなさんにも是非ご協力していただければと思っています。よろしくお願いします。

- 収集日…10/11(月)、10/18(月)、10/25(月)
- 時間・場所…8:00～8:20に1階渡り廊下
- 寄付していただきたいもの
  お米、レトルト食品、カップめん、缶詰、ジュース、スナック菓子など

※ただし、常温で保存できるもの、賞味期限が3ヶ月以上のもの、未開封のものを募集しています。
なお、賞味期限が明記されていないものはお預かりすることができませんのでご確認ください。（1年生食材応援プロジェクトチーム）

豊中社協独自のフードバンク
困窮世帯など20000世帯に

市内在学在住一人暮らし大学生
への食材支援 350世帯へ　新しいつながり

地域福祉活動支援センター単位で食材配布会

豊中の子どもの居場所のネットワークの構築

〜子どもの居場所ネットワークの構築〜

【内容】
子ども食堂・フリータイム・
学習支援（学生ボランティア）

《小学校区レベル》
「子どもたちの居場所」

一人ぼっちをつくらない
生活力をつける
自己肯定感を高める
自分の役割を感じられる

【実施主体】
校区福祉委員会

《社会福祉協議会》
コンセプトの共有
フードバンクの構築
学習会の実施

【実施主体】
社会福祉法人

《圏域レベル》
※市内7圏域

「福祉施設を中心にした
トワイライトステイ」

施設の社会貢献事業
地域で支えきれない子どもの支援

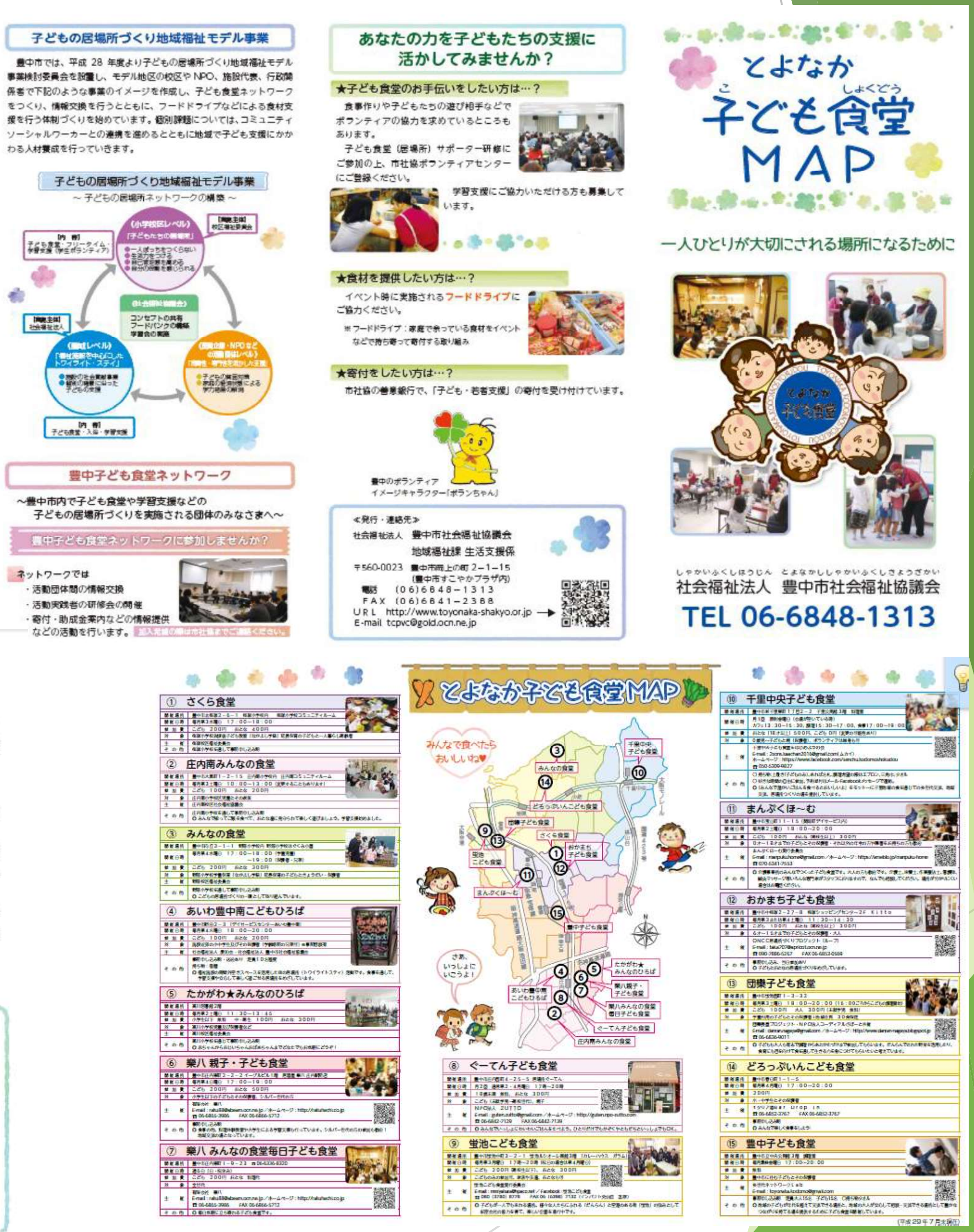
【内容】
子ども食堂・入浴・学習支援

《民間企業・NPOなどの活動団体レベル》
「民間性・専門性を活かした支援」

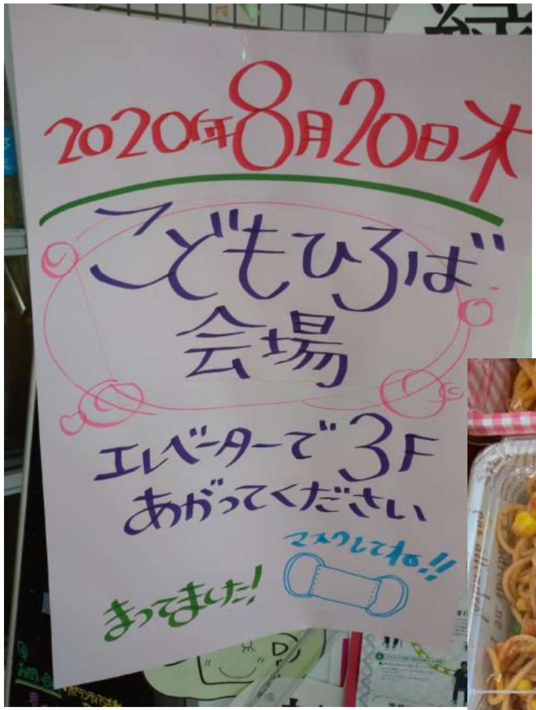
子どもの貧困対策
家庭の経済状況による学力格差の解消

ハンドブックの作成

子ども食堂ＭＡＰの作成



子ども食堂は
学習支援に食事はテイクアウトへ



社会福祉法人あいわ会と協働でこども宅食をスタート
支援中の80世帯に配食

愛情たっぷりのお弁当

子ども食堂は屋外野菜収穫体験に…
向かい合わずに
スイカを食べます

れんげまつり
宅食・外国ルーツのある子・定年後の男性・オレンジカフェのメンバー

地域での学習支援の場づくり

食で繋がった支援　2年で95ケース

①宅食からお母さんとの信頼関係ができて家の掃除ができた。

②外国にルーツのあるご家庭　困ったことを連絡してもらえるようになった

③一年間のつながりの中で勉強したいと話すようになり個別の学習支援が始まり、支援者は引きこもりの若者
卒業式に参加でき、入学できた。　支援者は学童の指導員になった

④父子家庭ヤングケアラーの家庭　お弁当の日だけ子どもの顔になる。

⑤宅食を続ける中で学習支援を希望するようになる
⇒この子のための学習支援の場を作る・リストカットの話をする

⑥コロナ禍で野菜収穫体験・凧あげ、等様々な生活体験を広げる

⑦不登校だった子が次々に宅食がきっかけで社会参加につながる
ボランティア・居場所・野菜作り・イベント等

#離れていてもつながろう

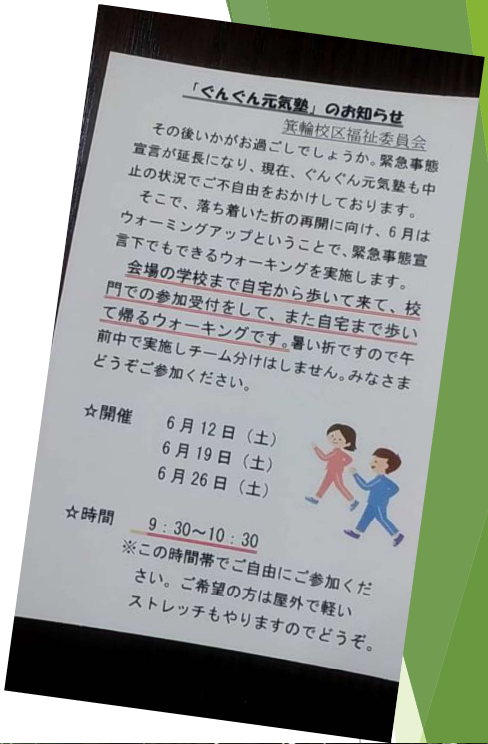
- 往復はがき
- 手作りマスク
- 校区福祉委員会の見守り
- はがき、ポスティング、電話
- 遠隔サロン
- ユーチューブチャンネル
- アンケート　当事者・ボランティア・外国人等2000人
- 新しい生活様式下での地域活動再開のためのガイドライン
- フードバンク

  緊急支援・子ども食堂関連・ひとり親世帯・

  一人暮らしの大学生等　　3 500世帯

ぐんぐん元気塾
人数を半分にまたは会場を倍の大きさに変えて　茶話会なしに…

ぐんぐん元気塾を
ぐんぐんウォークへ



「ぐんぐん元気塾」のお知らせ

箕輪校区福祉委員会

その後いかがお過ごしでしょうか。緊急事態宣言が延長になり、現在、ぐんぐん元気塾も中止の状況でご不自由をおかけしております。

そこで、落ち着いた折の再開に向け、6月はウォーミングアップということで、緊急事態宣言下でもできるウォーキングを実施します。

会場の学校まで自宅から歩いて来て、校門での参加受付をして、また自宅まで歩いて帰るウォーキングです。暑い折ですので午前中で実施しチーム分けはしません。みなさまどうぞご参加ください。

☆開催　6月12日（土）
6月19日（土）
6月26日（土）

☆時間　9：30～10：30

※この時間帯でご自由にご参加ください。ご希望の方は屋外で軽いストレッチもやりますのでどうぞ。

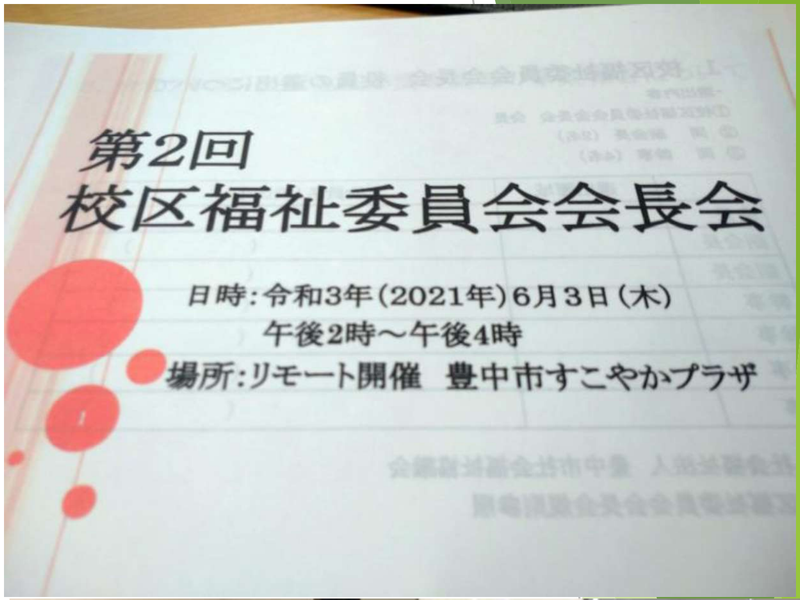
屋外でテイクアウト
食事は手作りから業者弁当に

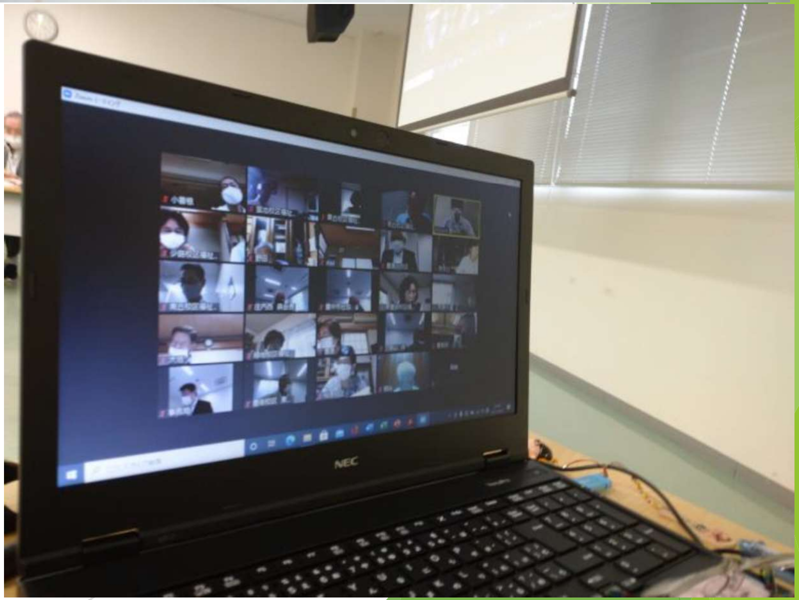
会食会からキッチンカーへ

買い物支援
移動ローソン　施設と連携

スマホ・タブレットの
使い方研修

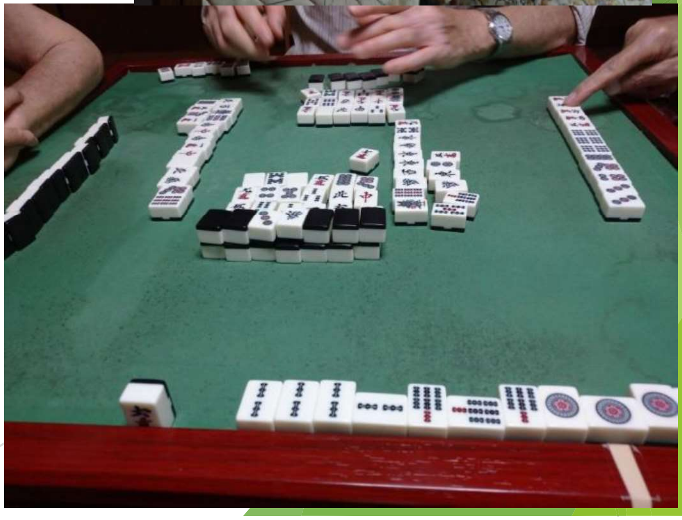
オンラインで校区会長会開催





一人暮らし老人の会
総会もリモートで

オレンジカフェの開設へ



黒豆をもぐと嬉しそうな笑顔に

全員の好きな食べ物が干し柿だったので渋柿を探して、吊るしました。

コロナ禍が浮き彫りにした生活困窮と社会的孤立

①これまで見えにくかった困窮層が明らかになった

　＊市役所に窓口があってもつながらない

　＊敷居の低い相談体制(SNS・相談窓口・居場所づくり・アウトリーチ)

　　→ここへの支援をどう作るか・どう支えていくのか

②ここへの社会的孤立への対応は　すべての人へ居場所と役割

　　1）居場所と役割づくり

　　2）制度の狭間を支える公民協働の仕組みづくり

　　3）福祉からだけでなく楽しいからつながる工夫

↓

コロナ禍で出会った困窮層をなかったことにするのか

コロナで制約を受けた活動の工夫を生かしていくのか